



道総研

## 2025 年 10 月 日本海スケトウダラ資源調査結果

令和 8 年 1 月 16 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166  
中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は，宗谷・留萌海域で前年比 0.63，石狩・後志海域で前年比 0.67，檜山・渡島海域で前年比 1.05
- ◎利尻・礼文島周辺海域及び武蔵堆東部海域では尾叉長 10 cm 前後の 0 歳魚（2025 年級），武蔵堆西部海域では尾叉長 17 cm 前後の 1 歳魚（2024 年級）と 24 cm 前後の 2 歳魚（2023 年級）が主体
- ◎留萌沖では，海底深度 350 m 以浅では尾叉長 17 cm 前後の 1 歳魚（2024 年級）が主体で，350 m 以深では幅広いサイズの個体が漁獲された
- ◎積丹沖，檜山では尾叉長 40 cm 台前半の 6～7 歳魚（2018～2019 年級）前後の個体が主体

### 1. 調査概要

2025 年 10 月 15 日～25 日に道西日本海の図 1 に示した海域において，稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により，計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

### 2. 魚探反応量

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図 2 に，魚探反応量 NASC の分布を図 3 に示します。今年度の調査では，小樽堆北（ライン E）と積丹沖（ライン I）及び島牧沖（ライン M）で強い反応が見られました。

海域別の反応量は，宗谷・留萌海域で前年比 0.63，石狩・後志海域で前年比 0.67，檜山・渡島海域で前年比 1.05 であり，全体では前年比 0.70 でした（魚探反応量は暫定値）。

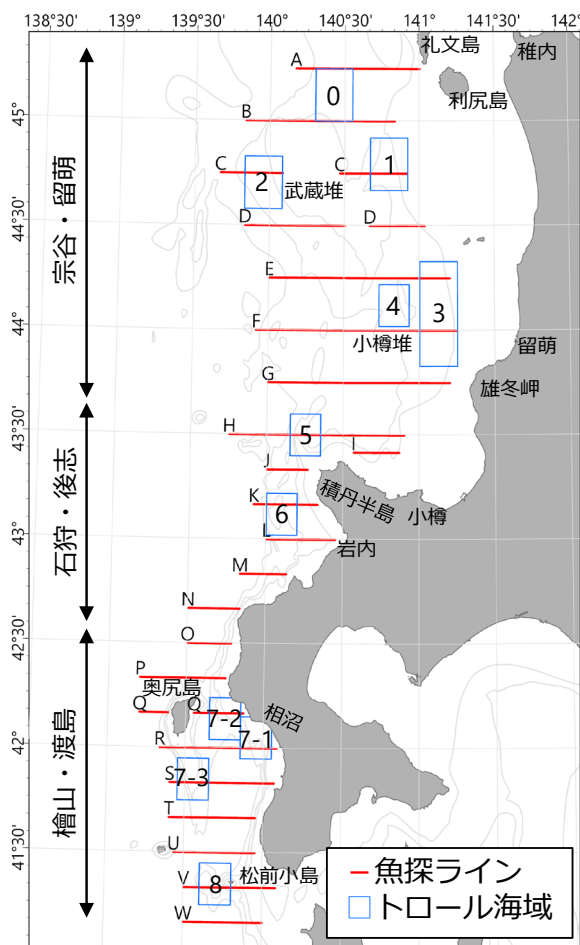


図 1. 調査海域図

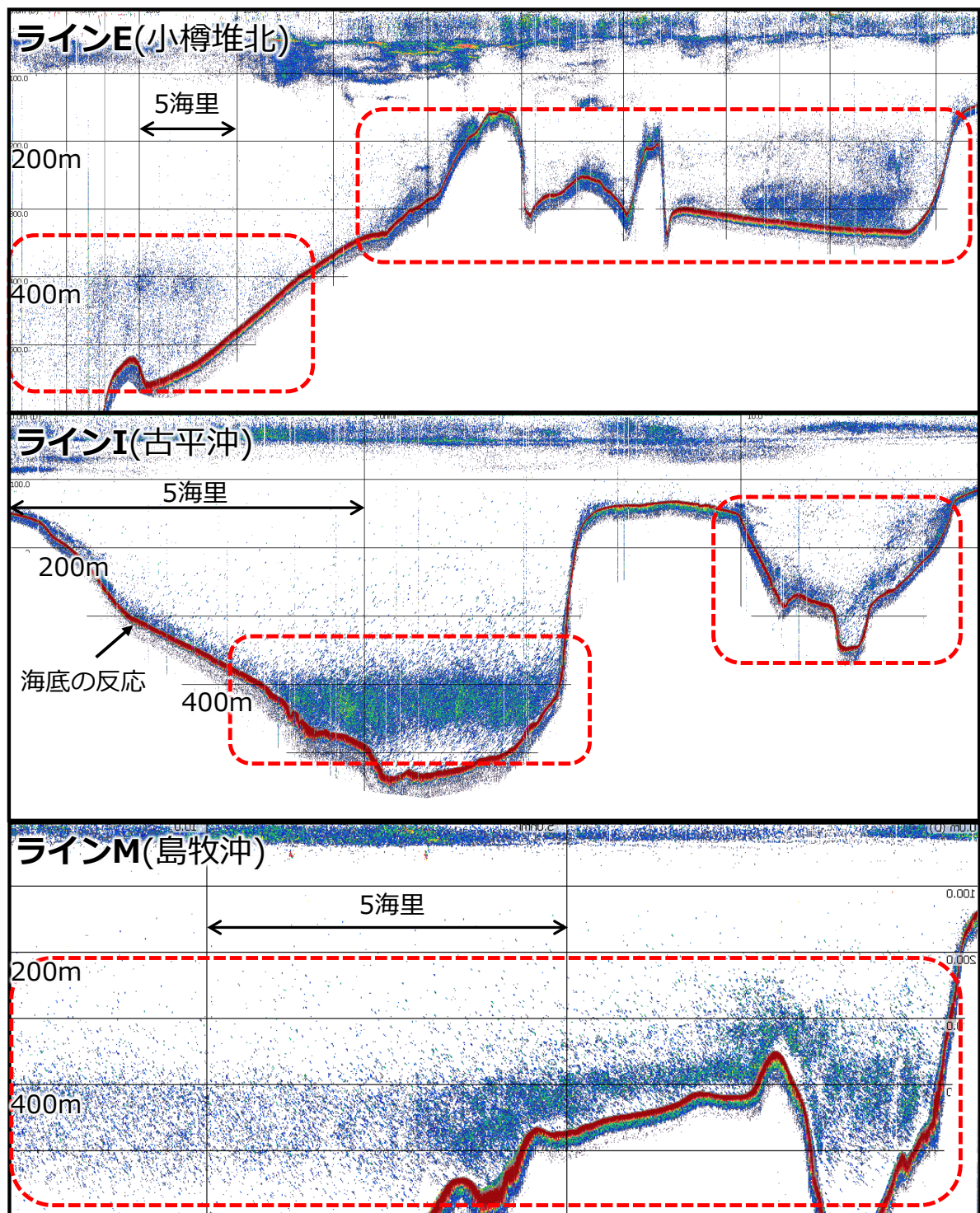


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーグラム）.  
赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応. 各画像の右側が沿岸側.

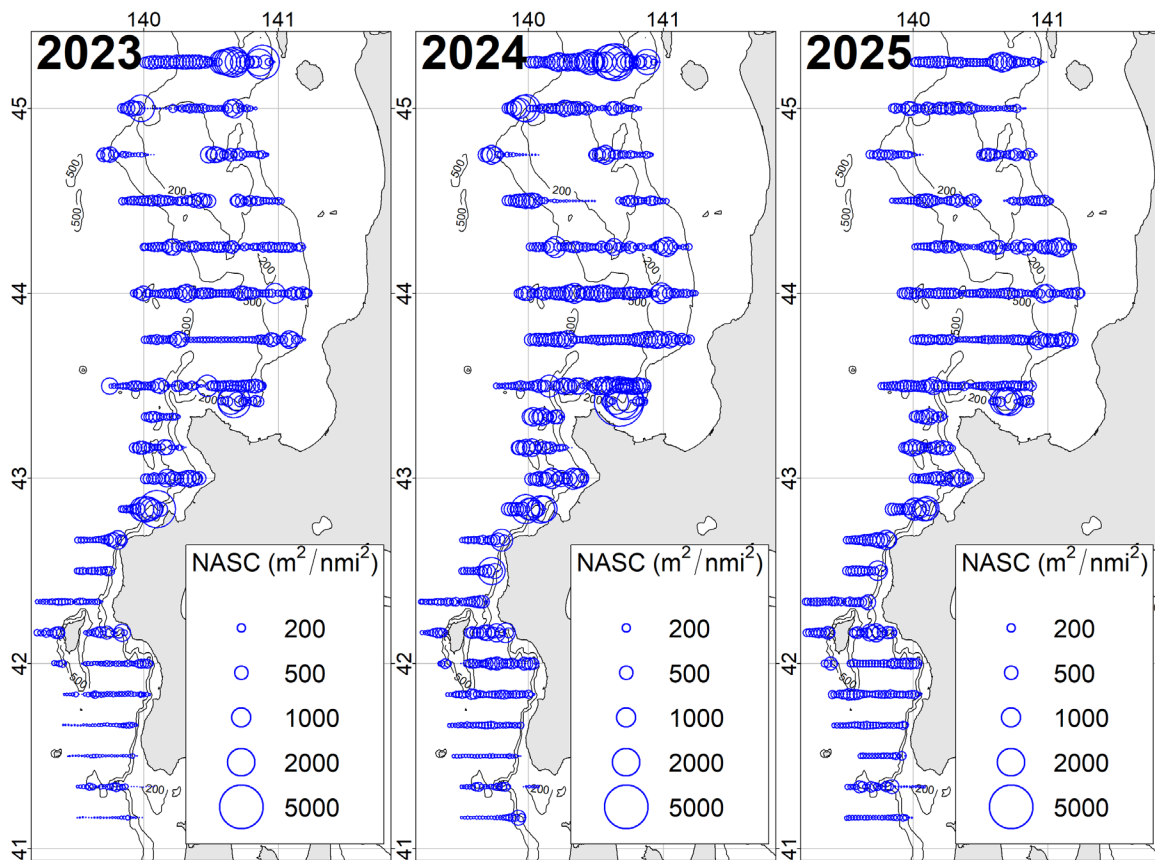


図 3. 魚探反応量 NASC の分布.

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる.

### 3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 4 に示します。利尻・礼文島周辺海域及び武蔵堆東部海域（トロール海域 0, 1）では、尾叉長 10 cm 前後の 0 歳魚（2025 年級）が主体で、幅広いサイズの個体が漁獲されました。武蔵堆西部海域（トロール海域 2）では、尾叉長 17 cm 前後の 1 歳魚（2024 年級）と 24 cm 前後の 2 歳魚（2023 年級）が多く漁獲されました。

留萌沖（トロール海域 3, 4）では、海底深度 350 m 以浅では尾叉長 17 cm 前後の 1 歳魚（2024 年級）が多く漁獲され、海底深度 350 m 以深では幅広いサイズの個体が漁獲されました。

積丹～檜山海域（トロール海域 5～7）では尾叉長 40 cm 台前半の 6～7 歳魚（2018～2019 年級）の個体が主体で、相沼沖では 17 cm 前後の 1 歳魚（2024 年級）も漁獲されました。

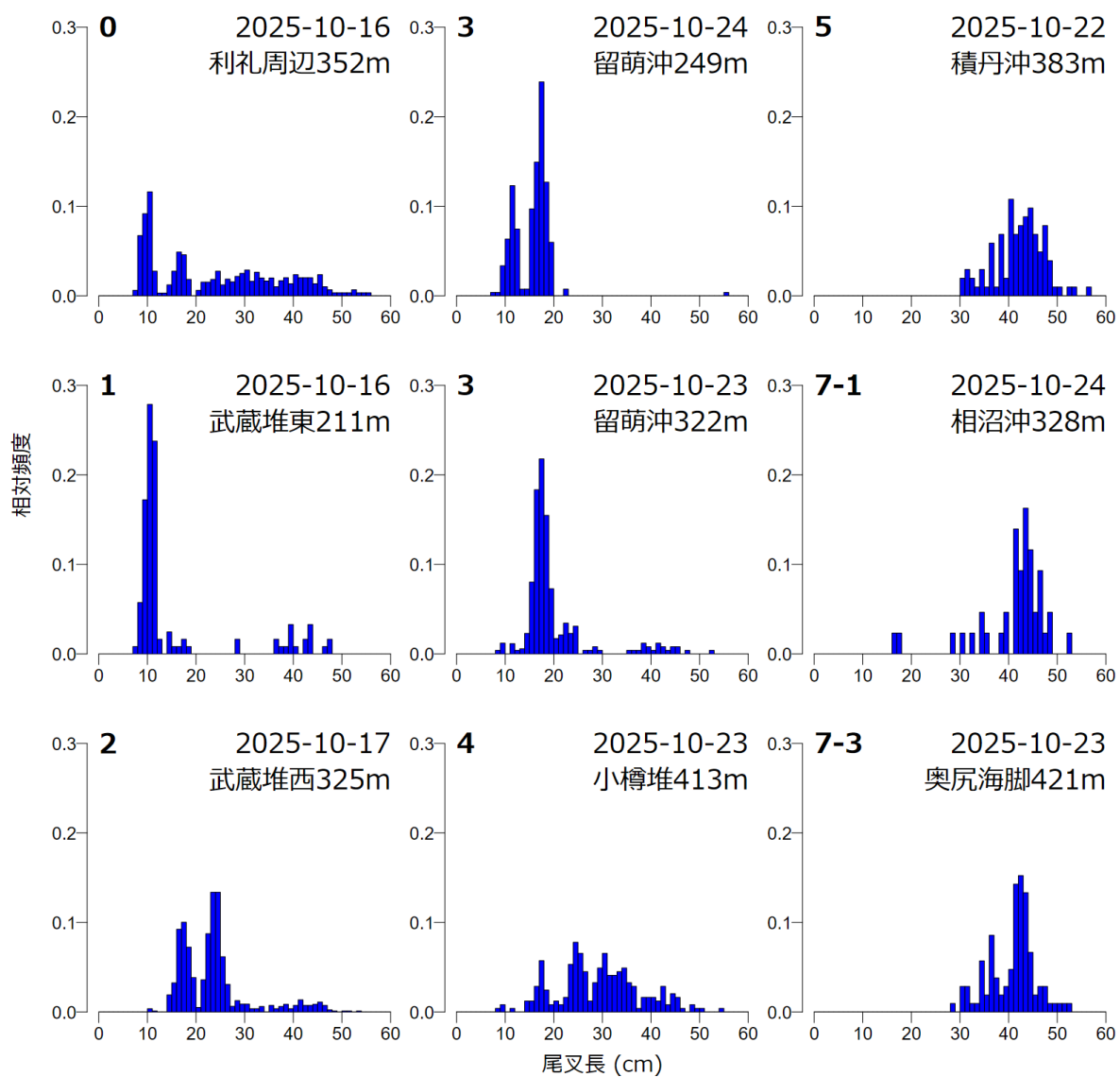


図 4. スケトウダラの尾叉長組成 (2025 年 10 月道西日本海).  
各グラフ左上数字は図 1 のトロール海域番号と対応.